

U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

米国 在庫積み増しも在庫率は過去最低水準にとどまる(05年8月在庫・売上統計)

発表日: 05年10月14日(金)

~ 売上の堅調さを背景に在庫は再び拡大 ~

(No. UI - 124)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

企業在庫 (Manufacturing and Trade Inventories and sales)

	企業在庫				企業売上 Sales	在庫率			
	Inventories	製造業 Manufacturers	小売業 Retailers	卸売業 Merchant wholesalers		Inventories/ Sales Ratio	製造業	小売業	卸売業
04/08	0.2	+0.1	0.9	+0.4	+0.3	1.295	1.197	1.534	1.170
04/09	+0.4	+1.0	0.6	+1.2	+1.1	1.286	1.193	1.513	1.168
04/10	+1.1	+1.1	+1.1	+1.2	+0.5	1.294	1.198	1.529	1.173
04/11	+0.2	+0.1	+0.2	+0.3	+1.2	1.281	1.184	1.514	1.165
04/12	+0.9	+1.4	+0.3	+1.0	+0.3	1.288	1.195	1.516	1.173
05/01	+0.5	+0.5	+0.4	+0.6	0.4	1.299	1.214	1.513	1.187
05/02	+0.5	+0.5	+0.4	+0.6	0.4	1.299	1.214	1.513	1.187
05/03	+0.4	+0.4	+0.2	+0.6	+0.8	1.294	1.199	1.510	1.191
05/04	+0.3	+0.1	+0.1	+0.7	+0.8	1.286	1.204	1.486	1.183
05/05	+0.1	0.1	+0.2	+0.3	+0.2	1.286	1.194	1.495	1.186
05/06	0.0	+0.1	0.5	+0.4	+0.8	1.275	1.194	1.458	1.186
05/07	0.4	+0.6	1.8	+0.1	+0.8	1.260	1.200	1.405	1.181
05/08	+0.4	0.1	+0.9	+0.5	+0.4	1.261	1.178	1.448	1.172

(出所) 商務省 (Department of Commerce)

在庫は前月比+0.4%と市場予想を上回った

05年8月の企業在庫は、自動車販売の好調を映じて前月比+0.4%と市場予想の同+0.1%を上回った。川上の製造業で減少したものの、小売業、卸売業で増加した。小売段階では、家具・家電が同0.3%と減少が続いた。しかし、自動車・同部品が同+1.7%、一般小売が同+1.3%、食料品店が同+0.2%、衣服が同+0.2%と増加に転じた。加えて、建設資材が同+0.5%と高い伸びを維持した。自動車以外の個人消費の堅調さを背景に自動車・同部品を除く小売在庫は同+0.6%と7月の同+0.0%から増加した。卸売業の在庫は、耐久財が鈍化したものの非耐久財が増加したため同+0.5%と増加に転じた。非耐久財では、紙、雑貨、化学、アルコールの在庫が増加した。

在庫率は過去最低水準で推移

一方、企業売上高は前月比+0.4%と鈍化した。この結果、在庫率が1.261ヵ月と過去最低水準で推移しており、在庫は適切にコントロールされている。在庫率が低い水準にとどまっていることから分かるように、企業は売上の変動に合わせる形で過剰な在庫の増加を抑制している。今後も価格競争が激しいなか原材料価格の高止まりが続くとみられ、企業は需要を上回るペースでの在庫の積み増しには慎重な姿勢を崩さないと見込まれる。

在庫管理能力の向上が米国景気の持続的な拡大の可能性を高める

段階別の在庫率動向をみると、流通改革によって最も早く変化が求められた卸売業では90年代前半から既に在庫率が低かった。さらに、2004年にかけて一段のコスト抑制が求められるなか再び在庫率は低下傾向を強め2004年4月には1.14ヵ月程度まで低下した。足下8月でも1.17ヵ月にとどまっている。製造業は、90年代前半には約1.65ヵ月だったが、在庫管理能力を高めたことで、足下8月には1.17ヵ月まで低下している。原材料価格の上昇

等のコスト増加上昇が強いもと、需要に見合った在庫の増加を維持している。消費者に最も近い小売業では、商品を陳列する必要があるため在庫率は一番高いものの、90年代前半の約1.7ヵ月から競争激化を背景としたコスト削減圧力の強まりから低下傾向を辿った。足下では価格転嫁が限定的なものにとどまるなか、在庫の圧縮を進めており7月には自動車部門の減少もあり在庫率は1.40ヵ月まで急低下した。

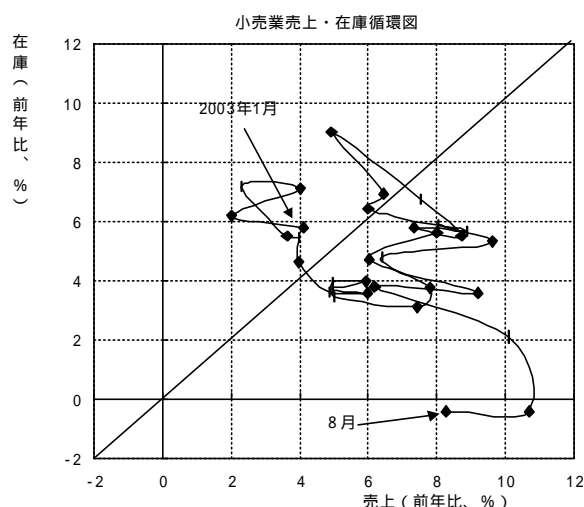
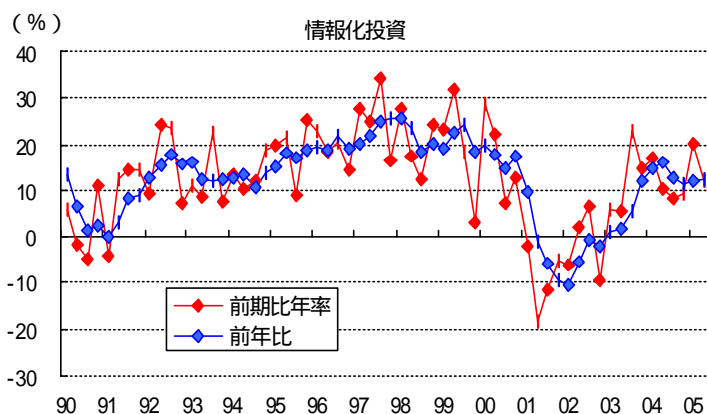
全体でも、在庫管理能力の向上によって90年代前半の約1.5ヵ月から足下で1.25ヵ月を下回り過去最低水準まで低下するなど、企業の効率性はさらに高まっている。このため、原油価格や原材料価格の高止まりに伴う悪影響を吸収し、インフレ圧力の緩和に寄与している。また、在庫管理能力の向上は経済の柔軟性を高め景気の調整を軽微なものにとどめるため、米国景気の持続的な拡大の可能性を高めている。

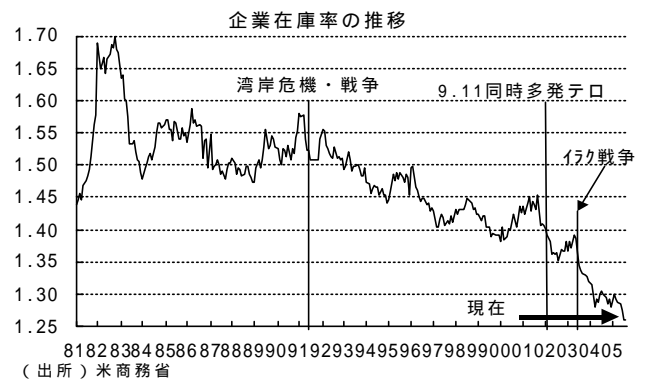
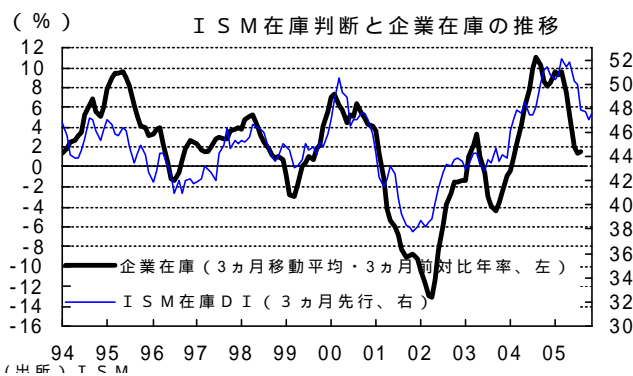
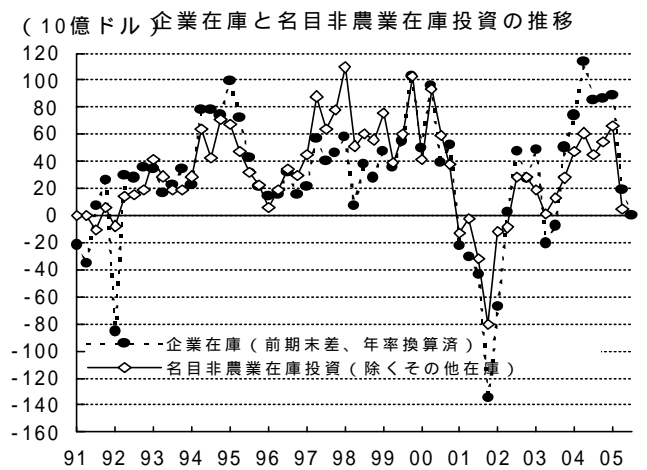
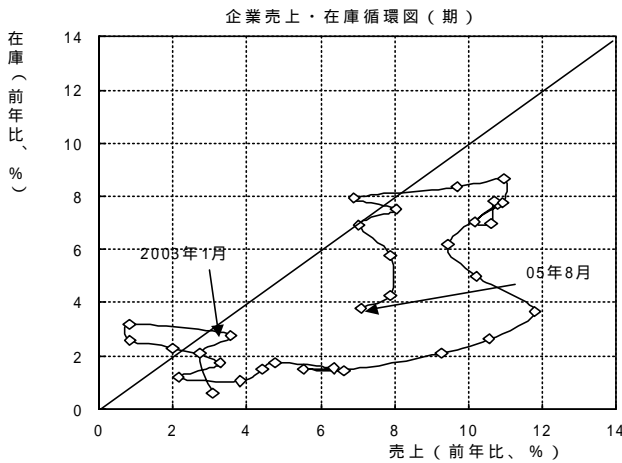
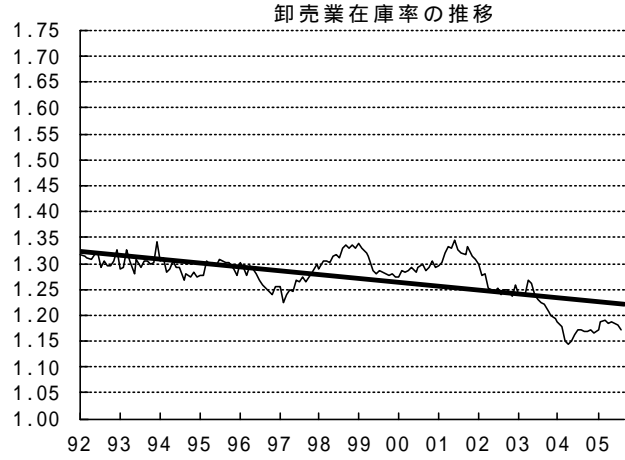
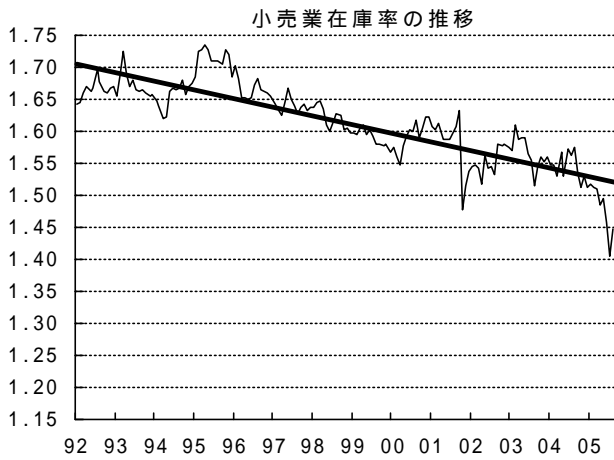
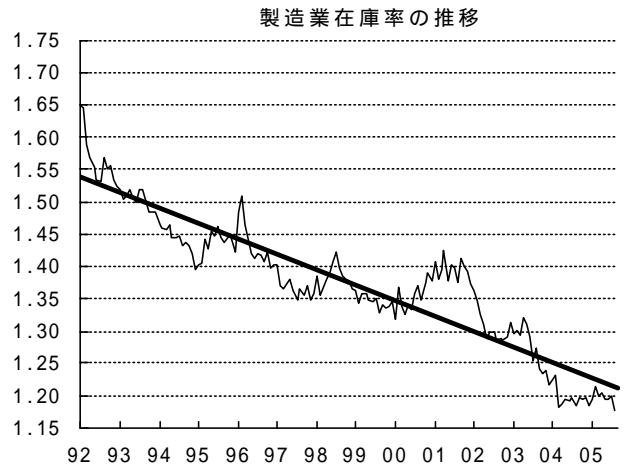
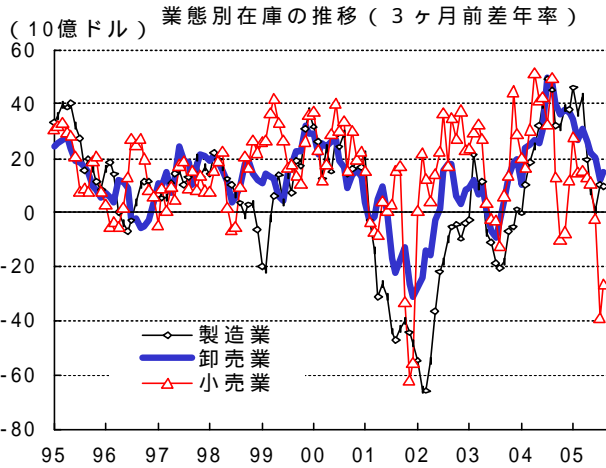
自動車部門での在庫積み増し等により7～9月期の在庫投資は増加に転じよう

国際的な価格競争が激化している状況のもと、企業は潤沢なキャッシュフローを背景に積極的に情報化投資を行い効率性を高めていることから、在庫管理能力の向上が続く可能性が高い。特に、価格の引き上げが困難な小売段階では、米小売最大手が積極的にICTタグの導入を進めるなど取引先を巻き込む形で物流・商品管理の能力向上に努めており、今後在庫率はさらに低下が予想される。このような状況のもと、商品・原油価格の上昇によって投入コストの高い伸びが続くとみられコスト削減のために、企業は需要に見合った在庫の積み増しにとどめると見込まれる。

最終需要の動向では、個人消費は雇用・所得の拡大を背景に拡大基調が持続するとみられる。ただし、7～9月期に自動車販売が急増した反動によって10～12月期の個人消費は前期比年率で+2%台に一時的に鈍化すると予想される。一方、設備投資はこれまでの堅調な成長による期待成長率の高まり、キャッシュフローの拡大を背景に、好調を維持すると見込まれる。このような最終需要のもと、4～6月期に拡大ペースが大幅に鈍化した在庫投資は、10～12月期に拡大ペースを速めると予想される。外需では、輸出はドル安の押し上げ効果が期待でき10～12月期以降拡大ペースが加速しよう。一方、輸入は国内需要の堅調を背景に高い伸びが持続するとみられる。

以上のことから、年末にかけて潜在成長率程度での成長が予想される。このような中、6、7月と大幅に減少した自動車の在庫は、9月以降も積極的な積み増しが行われるとみられる。さらに、世界的なハイテク部門の在庫積み増しを背景に在庫投資は7～9月期以降増加傾向を辿ると予想される。





本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。